

日本死の臨床研究会中部支部 第20回研修会 (第46回年次大会プレ企画)

日 時 : 2022年2月20日 (日)
10 : 30 ~ 16 : 20 (受付 10 : 00 ~)
場 所 : 三重大学医学部 臨床第1講義室
三重県津市江戸橋2丁目174番地
※オンライン開催ではありません。
定 員 : 40名 (事前申し込み制)
参加費 : 会員1,000円 非会員2,000円

年次大会三重で開催決定！

日本死の臨床研究会は「死の臨床において患者や家族に対する真の援助の道を全人的立場より研究していくこと」を目的として1977年に設立されました。医療だけでなく、様々な分野から集い、誰にも平等に訪れる「死」と「死にまつわる問題」に正面から取り組み、すべての人が人生の最期の時まで希望する生き方を実現できるよう、死をめぐる援助の在り方を追求してきました。

2022年11月26日・27日に三重県津市で開催予定です。多くのお参加をお待ちしています。

第46回 死の臨床



◆プログラム◆

10 : 30 ~ 10 : 35 開会の挨拶

10 : 35 ~ 16 : 15 研修会

テーマ : 臨床倫理を学ぶ

~解決を急ぎすぎず事例の理解を深めるのがカギ

講 師 : 服部 健司 先生

(群馬大学大学院医学系研究科 医学哲学・倫理学講座)

現在の日本では、米国発祥の「四分割表」「臨床倫理委員会」「倫理コンサルタント」の3つを取り入れ、倫理の専門家を活用して訴訟回避と問題解決案の早期合意形成を目指す方法が進んでいます。今回の研修では、それらとは対極的な方法であるオランダの対話的技法 (MCD ; moral case deliberation) を取り上げ、その特徴、手順と柔軟な使い方、臨床現場に導入するための工夫の仕方をケース検討を通して学びます。

(内容の詳細は裏面をご覧ください)

16 : 15 ~ 16 : 20 閉会の挨拶



研修会参加はこちら！

左記QRコードより事前登録をお願いします
(~~必~~切 : 2月4日 (金) です)

問合先 : 三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
TEL : 059-231-5764 E-mail : kanwa@med.mie-u.ac.jp

テーマ：臨床倫理を学ぶ

～解決を急ぎすぎず事例の理解を深めるのがカギ

講師：服部 健司 先生

群馬大学大学院医学系研究科 医学哲学・倫理学講座

プログラム：

時間	分	内容
10：30～10：35	5	開会
10：35～12：00	85	講義
12：00～13：00	60	昼食休憩
13：00～14：30	90	事例検討
14：30～14：45	15	休憩
14：45～16：15	90	事例検討
16：15～16：20	5	閉会

※講師と受講者のやり取りに応じて内容の変更を行う場合があります。（開始/終了時間の変更はありません）

※対話的技法（MCD；moral case deliberation）とは

MCDとは、管理棟会議室ではなくまさに臨床の現場で、訓練を積んだ進行兼書記役のファシリテーターの最小限の仕切りのもとで、多職種から成る医療チームの面々が他者の考えに耳を傾け合い、対話を活発にまわしていくなかで、自分たちが実際に直面している臨床倫理の具体的な問題を考え抜くという方法である。そこでは参加者全員の合意を形成し、早急に結論を出すことは必ずしも目指さず、それよりも、各人がケースを一面的に見るあり方から抜け出し、他の見方や立場にも一半の理があることを理解することに重きをおき、MCDを行う前には思いもよらなかった新たな見方、意見を生み出すことを目標とする。・・・

・・・ 悩みや迷いを感じた自験例を多角的な視座から再検討し、より深い理解と（可能なかぎり）問題解決を目指して使われる（ケースレベル）ほか、医療者の道徳的感性や態度をより高めるため（職能レベル）、施設運営のあり方やポリシーをよりよいものにしていくため（組織レベル）にも用いられる。

服部健司「臨床倫理学においてジレンマという枠組みを超えて」

（生命倫理,2019）より抜粋